

# 技能伝承の新制度スタート

## 自動車部品製造のアイコクアルファ

自動車部品製造のアイコクアルファ（本社稲沢市祖父江町森上本郷十一-4の1、樋田克史社長）で、社内の技能や営業ノウハウを伝承する社内制度が広がりをみせている。制度開始から約1年で設計や営業、技能など7つの取り組みが立ち上がった。ベテラン社員が長年培った技能やノウハウを積極的に次世代に継承することで、企業の成長を促す。

（勝又佑記、黒川鈴子）

## 設計、営業など7組



高精度な穴あけ加工を若手社員に伝承する様子

若手社員の教育制度「技能伝承士制度」は、50代を中心とするベテラン社員が技能伝承士として自ら申請。20～30代の若手社員と子弟関係を組む活動だ。

半年に1回、事業部の責任者や担当管理者などが進捗（しんちよく）状況を確認する報告会を開く。一定の技能習得が認められれば、技能伝承士にボーナスとして10万円が支給される。現時点で技能習得を修了した事例はまだないという。

一例が、航空機部品などの生産で培った高度な切削加工技術の伝承だ。エンジン部品にドリルで横穴を空ける高精度な技術で「自動化が難しい」（樋田社長）。

自動車部品などを生産する冷間鍛造部品事業では、金型の仕上げ加工を伝承する事例もある。

標準化しにくいとされる営業ノウハウ伝承にも挑戦している。荷物の移動作業を支援するハンドクレーン「ラクラクハンド」を客先に売り込む際、若手がベテラン社員に同行して営業ト

ークを聞いてもらう。商談の中で、受注につながる隠れたニーズを見つける視点や観察力を磨く。

樋田社長は「真剣に技能を教えれば、次世代にノウハウを伝えられる。ベテラン社員はどちらかというと寡黙で職人気質だが、技能伝承士を全社で増やしたい」と話している。